

災害に強い まちづくりの実現に向けて

近年、全国各地で豪雨災害をはじめ、地震などの自然災害が相次いで発生し、甚大な被害をもたらしています。東日本大震災以降では、震度7を2度観測した2016年(平成28年)熊本地震、そして2018年(平成30年)には西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」など、これまでの想定を超えた自然の猛威が各地を襲いました。

こうしたこれまでの経験を基に、大田市ではいつ起こるか分からない災害の発生に備えて、対策の強化を図っておりますが、災害が発生した場合、市や防災関係機関の対応だけでは立ち向かうことはできません。被害を最小限にとどめるためには、自助・共助を、市民の皆さま一人ひとりに心掛けていただき、実践することが大切です。

このハザードマップは、地震・津波・洪水・土砂災害に関する情報のほか、災害情報の入手方法やマイ・タイムラインの作成など、より実用的な内容となっております。ご家庭のみならず地域や職場など、あらゆる場面でご活用いただき、災害時に備えていただきたいと思います。



2016年(平成28年)「熊本地震」



2018年(平成30年)「平成30年7月豪雨」

もくじ

見出し	内容	ページ
はじめに	大田市ハザードマップについて	1
地震	大田市で想定される地震	2-3
津波	地震のあとは津波に注意!	4-5
洪水	台風/前線、ゲリラ豪雨は注意!	6-7
土砂災害	大雨、地震での地盤のゆるみに注意!	8-9
ハザードマップ	ハザードマップでリスクを確認しよう!	10-11
	ハザードマップ	12-19
役立つ情報	避難所での過ごし方	20-21
	非常持出品・備蓄品、災害情報の伝達先と入手先	22-23
マイ・タイムライン	書き込んで完成させよう!	24-25

大田市ハザードマップについて

ここ大田市では、近年においては大規模な自然災害は発生していないものの、島根県内でみると、直近では平成30年7月豪雨や令和3年7月、8月の大雨により、県全域に亘り被害が発生しています。

災害はいつ、どこで、どの程度の規模で発生するのかわかりません。「その日」は数年後、数十年後、あるいは明日かもしれません。

自分や大切な人を守るためには、起こりうる災害を理解し、日頃から適切な備えをしておく必要があります。

ハザードマップはあくまでも想定図ですが、本ハザードマップを活用して事前に災害をイメージし、避難行動について準備することができれば、いざという時に慌てずに行動することができます。

本ハザードマップには、さまざまな防災に関する情報を掲載していますので、あらかじめ目を通していただき、みなさん一人ひとりの災害に対する日頃の備えに役立ててください。



2016年
(平成28年)
「熊本地震」
熊本城の被災状況



2018年
(平成30年)
「平成30年
7月豪雨」
土砂に押し流された家屋

出典：(一財)消防防災科学センター「災害写真データベース」

1 家の位置を確認し、避難経路を考えよう

あなたの家の場所をマップに書き込み、最寄りの避難場所・避難所を複数選びましょう。



2 実際に避難場所・避難所まで歩いてみよう

地図で選択したそれぞれの避難場所・避難所までの経路を確認しましょう。また、避難経路が安全かどうか、避難にどのくらい時間がかかるかについても確認しましょう。



3 家の周りの災害の危険性を確認しよう

あなたの家は、土砂災害による警戒区域もしくは、浸水が想定されている地域ですか？
家の周りにブロック塀などの危険な場所はありませんか？



4 災害や避難について、話し合ってみよう

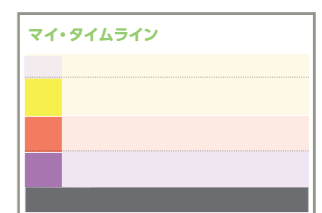
あなたの家だけでなく、家族の職場や学校、よく行く場所などについても避難所や危険性を確認しましょう。



マイ・タイムラインを作ってみよう

マイ・タイムラインは、大雨や台風が接近しているときに自分や家族が「いつ」「何をやるのか」をあらかじめ決めておく計画表のことです。いつ災害が起こっても落ち着いて行動できるように個人や家庭の実情に合ったそれぞれのマイ・タイムラインを作成しておきましょう。

詳細はP.24-P.25へ!

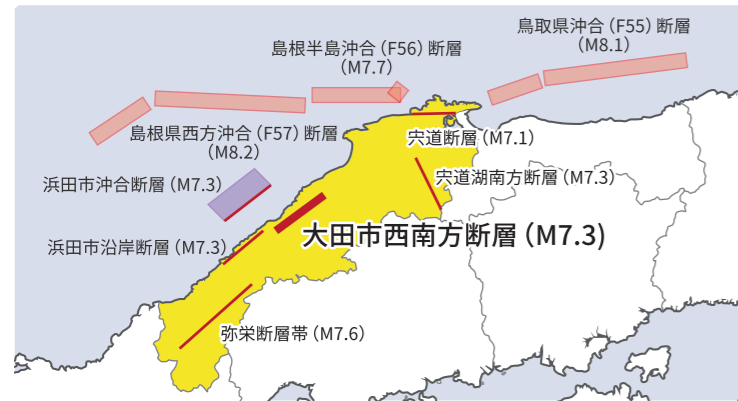


地震について学ぼう

「島根県地震・津波被害想定報告書(島根県 平成30年3月)」によると、島根県陸地部及び島根県周辺の沖合に位置する8断層が、大田市に地震被害をもたらすと考えられています。その中でも大田市西南方断層による直下型地震では、市内全域に甚大な被害が生じると予測されています。

近年では、鳥取県西部地震(2000年)の影響で負傷者や住家被害が発生しており、日本海中部地震(1983年)や北海道南西沖地震(1993年)では、津波被害も発生しています。

大田市では、平成30年4月9日午前1時32分に大田市東部の深さ12kmを震源とするM6.1最大震度5強の地震を記録しており、今後も地震及びそれに伴い発生する津波による被害が想定されているため、十分な警戒が必要です。



2016年(平成28年)熊本地震

2016年(平成28年)4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5(最大震度7)の地震が発生し、その約28時間後の4月16日1時25分、同じ熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3(最大震度7)の地震が発生し、地震活動域は熊本県阿蘇地方や大分県中部にまで拡大しました。最大震度1以上を観測する地震の回数は最初の震度7の地震から5か月後までに4,000回を超えるなど、地震活動は広域で極めて活発となり、熊本県を中心に甚大な被害が生じました。

死者(災害関連死含)	273名
負傷者	2,809名
住家被害(全壊・半壊)	43,386戸

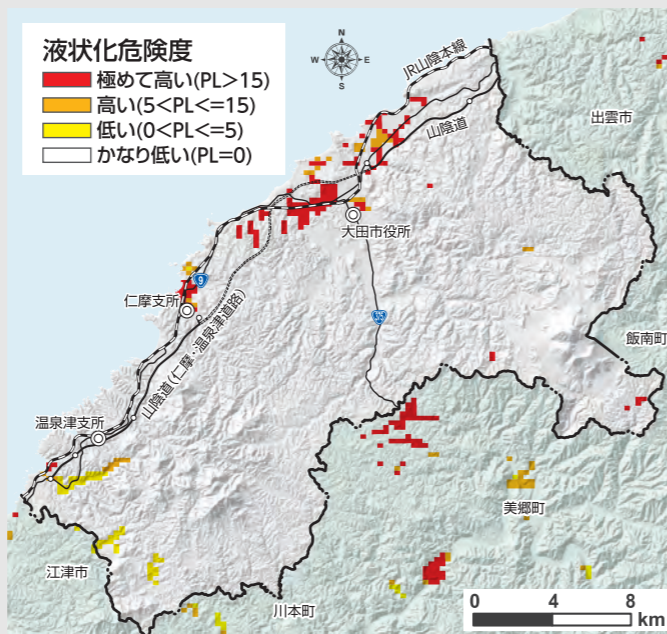
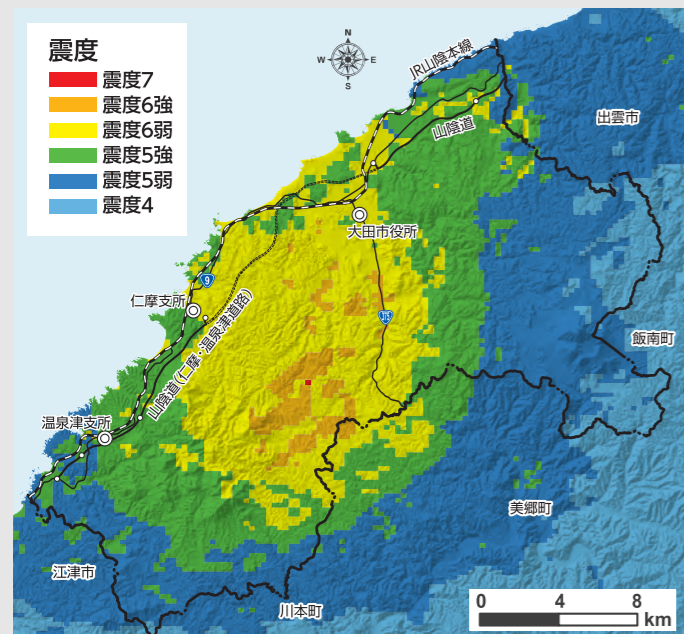
出典先/消防庁応急対策室
平成31年4月12日18:00時点集計



震度6弱又は震度5強が大部分を占めると予測されています

※建物・人的被害は、被害が最も大きくなる冬(人的被害は冬5時)に地震が発生した場合を想定

最大震度 7	震度は、地震の揺れの大きさを表した指標値				
建物被害	全壊 591 棟	半壊 3,448 棟	人的被害	死者 12 人	負傷者 296 人



出典：島根県地震・津波被害想定調査報告書(平成30年3月) 想定地震：大田市西南方断層の地震

日頃から地震に備えよう！

<p>震度 7</p> <p>動くこともできず、飛ばされることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、倒れるものが増える。 広い地域でガス、水道、電気の供給が停止することがある。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。 	<p>震度 6強</p> <p>はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。 	<p>震度 6弱</p> <p>立っていることが困難になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
<p>震度 5強</p> <p>物につかまらなさと歩くことが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	<p>震度 5弱</p> <p>大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、壁などに軽微なひび割れ・亀裂が入ることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは、倒れることがある。 亀裂や液状化、落石、がけ崩れが発生することがある。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。 	<p>液状化の発生も考えておきましょう</p> <p>液状化が発生すると、建物の倒壊や道路の沈下が起こり、通行が難しくなる場合があります。液状化が発生する可能性がある場所をあらかじめ確認しておき、より安全に避難できるルートを考えてみましょう。</p>

いろいろな場所での対応の仕方

地震から命を守るために、いざという時のとっさの避難行動や、安全でスムーズに避難するための方法を日ごろから考えておきましょう。

<p>家の中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頭を保護し、机の下などに逃げましょう。 ●ガス器具、ストーブなどの火を消しましょう。(元栓を締める) ●電気ブレーカーを落としましょう。 	<p>職場・学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カバンなどで頭を保護し、机の下などに逃げましょう。 ●本棚などの転倒に注意しましょう。 	<p>店舗・スーパー等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頭を保護し、ショーケースなどから離れましょう。 ●壁や太い柱に身を寄せましょう。あわてて出口に殺到せず、係員の指示に従いましょう。
<p>人が大勢いる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あわてて走り出すと危険です。係員の指示に従って落ち着いて行動しましょう。 	<p>エレベーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ●すぐに各階のボタンをすべて押し、停止した階でおりましょう。 ●閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めましょう。 	<p>自動車の運転中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●道路の左側か空き地に車を止め、エンジンを止めましょう。 ●警察官が交通規制を行っている場合は、その指示に従いましょう。 ●車を離れるときはキーをつけたままにし、ドアをロックしないでください。

津波による災害警戒区域について

大田市での津波による災害警戒区域は、島根県が行った地震による津波シミュレーションを基に、浸水の範囲と深さを地図上に示しています。津波最高水位が最も高いのはF57断層地震、最短到達時間が最も短い地震は浜田市沖合断層地震になります。



想定断層	地震の規模	想定断層	地震の規模
F55	Mw7.5	F60	Mw7.6
F56	Mw7.2	浜田市沖合	Mw6.8
F57	Mw7.5		

Mw・・・地震は地下の地盤がずれて起こるものです。この岩盤のずれの規模(ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩盤の硬さ)をもとにして計算したマグニチュードを、モーメントマグニチュード(Mw)と言います。

東日本大震災 (東北地方太平洋沖地震)

2011年3月11日午後2時46分。三陸沖を震源とするM9.0と発表された東北地方太平洋沖地震は国内観測史上最大の地震となり、震度7を記録しました。太平洋プレートと北アメリカプレートの境界でおこったこの海溝型地震は、震源域が岩手県沖から茨城県沖までのおよそ南北500km、東西200kmと広大で、これまでの想定地震規模を大きく上回る巨大地震でした。地震に伴って発生した大津波は、北海道から関東の太平洋沿岸へ押し寄せ、漁船、港湾施設、さらに住宅地や農地を呑み込み、大きな被害をもたらしました。

死者数・行方不明者数	22,318名
負傷者	6,242名
住家被害	405,737戸

出典/消防庁 令和5年3月1日時点



写真提供:(左)岩手県久慈市 (右)岩手県山田町

沿岸部に津波の影響が出るまでの想定時間



14分後

沿岸部に津波の影響が生じる。
※初期潮位から±20cmの水位変化が生じる。

40分後

基準水位3.7m
※地盤面からの高さ
津波の最大波到達(最大水位)
※第一波が最大波になるとは限りません。



9分後

沿岸部に津波の影響が生じる。
※初期潮位から±20cmの水位変化が生じる。

急いで高台へ避難することが鉄則!

津波は、陸地をさかのぼる場合があり、地震による津波の発生のおそれがある場合は、急いで高台などの安全な場所(高さ10m以上が目安)に向かって逃げるのが鉄則です。



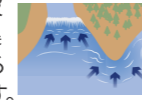
出典：島根県地震・津波被害想定調査報告書(平成30年3月)

津波の特徴

津波はいくつかの特徴を持った災害です。津波の特徴を知り、いざという時のために準備をしましょう。

地形による変化

岬の先端やV字型の湾内、入り組んだ海岸は津波のエネルギーが集中し、波が高くなる可能性があります。



河川を遡上する

津波は川を遡り(遡上)、堤防を超えて陸地に津波が溢れる可能性があります。



繰り返り来る

最初の第一波より第二波、第三波のほうが大きくなる可能性があります。



津波の威力

1~2mの津波でも家屋は全壊、流失する可能性があります。(2m以上は、ほとんどが流失します)



漂流物を巻き込む力

津波はガレキ等の漂流物を巻き込んで破壊力を増し、建物やときには防波堤さえも壊すことがあります。



わずかな深さでも注意

20~30cm程度の津波でも立っていらなくなり、足をとられ波にさらわれます。



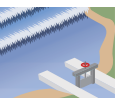
引き潮への注意

引き波の破壊力もすさまじく、陸で引き波にさらわれて沖に流されてしまうこともあります。



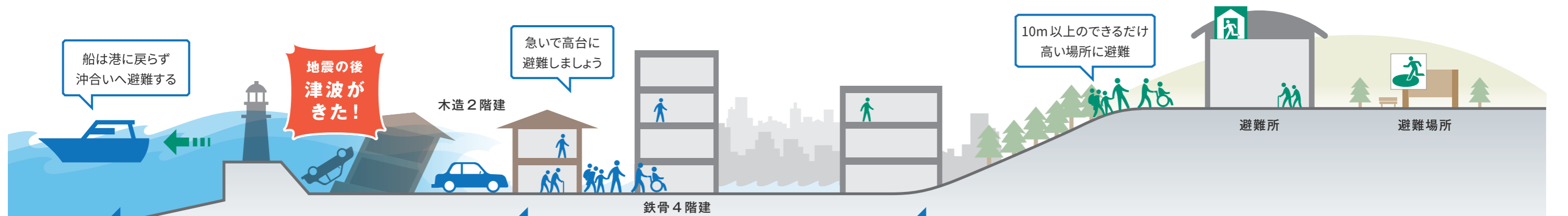
警戒は長期間に

津波は繰り返り襲って来ます。地震後6時間(最大12時間)は注意が必要となります。



ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.12-19



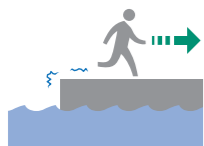
すぐ逃げましょう!

揺れを感じなくても、注意報、警報が発表されたり、市からの避難指示が発令されたらすぐ避難!とにかく走って、戻らない!

小さな揺れでも要注意
まずは避難が最優先

より早く、遠くへ、
高い所へ避難

海岸や河川からできる
だけ遠ざかるように避難



安全確保

津波警報・注意報が解除されるまでは戻らない!

近くに高台が無い場合は高い頑丈な建物など可能な限り高い所へ避難。



避難の注意

5分間で避難可能な距離

津波は地震発生から数分で到達する可能性があります。どこまで避難できるか確認しましょう。

一般人が1人で避難した場合 **約207m**

乳幼児や高齢者など歩行速度の遅い同行者と避難した場合 **約138m**

津波てんでんこ

「自分の命は自分の責任で守れ!」

「てんでんこ」は「てんでんばらばらに」の意味で、「人にかまわず必死で逃げる」という三陸地方に伝わる教訓です。緊急時に災害弱者(子ども・高齢者)を手助けする方法などは、地域であらかじめ話し合っておきましょう。



洪水の大元は？

前線の停滞や台風の襲来によって数時間にわたり大量の雨が降る集中豪雨、一時的に激しい雨が降るゲリラ豪雨に注意が必要です。

1 前線の停滞

日本付近では、6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞して、雨が降り続きます。



2 台風の接近

台風は暴風と大雨を降らせます。台風の規模によっては、広範囲にわたって甚大な被害をもたらします。



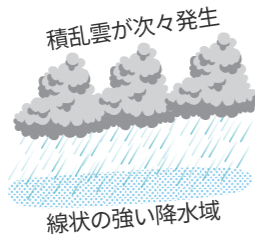
3 ゲリラ豪雨

大気の状態が不安定な時、積乱雲が発達し、局地的に強い雨が降ります。



- 真っ黒い雲が近づいてくる。
- 雷の音が聞こえてくる。
- 急に冷たい風が吹いてくる。

また、積乱雲が列をなすように次々と発生すると、災害発生の危険度が高い線状降水帯となる場合があります。



洪水が起こる原因は？

1 堤防の決壊で起こる「外水氾濫」

河川の流れを抑制している堤防が増水により越水・浸透・洗掘・亀裂等により決壊し、市街地に水が流れ込むことをいいます。



2 排水機能が追いつかず起こる「内水氾濫」

集中的な豪雨等により側溝や用水路などの排水機能が雨水に耐え切れず浸水することをいいます。



河川の水位情報と避難判断

主要な河川では、氾濫の危険度などを示す水位が定められています。河川の水位情報に注意して、早めの避難に役立てましょう。

氾濫発生	説明
▼ 氾濫危険水位	氾濫の起こるおそれがある水位
▼ 避難判断水位	避難判断の参考になる水位
▼ 氾濫注意水位	水害に備え各水防機関が出勤し警戒に当たる目安とする水位

洪水による浸水想定区域について

大雨時に想定される流域での災害リスクを知っておくことは重要です。また、ダム情報や水位情報により河川の状況を知ることができます。



⚠ 対象河川以外の浸水にも注意！

洪水による浸水想定区域は、静間川、三瓶川、潮川、福光川を対象に作成したものです。静間川・三瓶川はおおむね1000年に一度の確率で起こる大雨、潮川・福光川はおおむね30年に一度の確率で起こる大雨によって増水し、堤防が決壊したり、水があふれた場合の浸水を想定し、その「範囲」と「深さ」を地図上に示しています。洪水は対象河川以外でも発生するおそれがあるため、最新の気象情報や河川の水位情報、周囲の状況を確認しましょう。



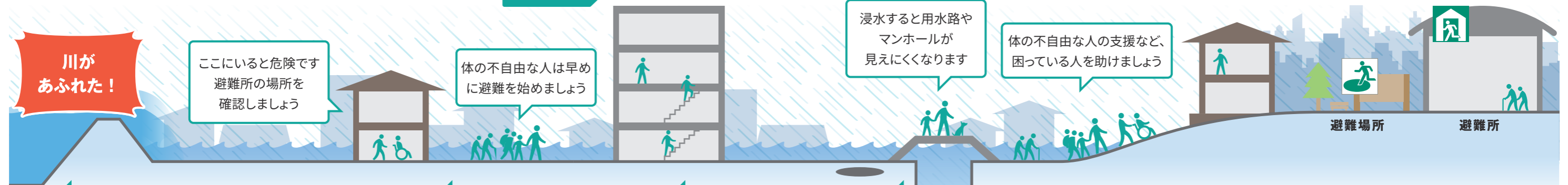
⚠ ため池の増水や決壊に注意しよう！

大雨や地震によりため池が増水したり決壊することにより下流域に被害を及ぼすことも考えられます。詳しくは県のホームページより各ため池ハザードマップをご確認ください。



ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.12-19



川に近づかない！

ライブカメラの活用

大雨・洪水時の河川は水位が短時間で急上昇するため、大変危険なので、絶対に近づかないでください。

河川の状況はライブカメラ画像で確認！

国土交通省川の防災情報
静間川水系の水位画像及び水位観測所の情報を公開しています。

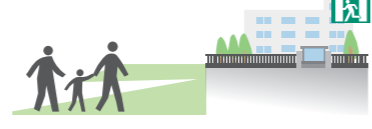
島根県水防情報システム
大田市内の水位画像及び水位観測所の情報を公開しています。



適切な避難方法を

洪水時の避難方法

1. 浸水しない地域の親戚・友人宅へ避難
2. 近くの避難所へ避難
3. 垂直避難 (高いところへの避難)



屋内安全確保

浸水がすでに始まっている場合は今いる建物内で垂直避難

浸水が始まっているときに外へ移動するのは大変危険です。少しでも高い場所へ避難してください。



避難の注意

用水路・マンホールは危険！

浸水するとマンホールや用水路が見えにくくなります。また、水が吹き出す場合があります。大変危険です。



避難の時は足元注意！

浸水している場所を歩くときには、棒などで足元をよく確認し、用水路や側溝などに注意して避難しましょう。水の深さが膝を超えると歩行が難しくなります。

目安	
大人 男性	水位 70 cm
大人 女性	水位 50 cm
子供	水位 20 cm



アンダーパスに注意しよう！

アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。大雨、洪水時には自動車での進入はやめましょう。



土砂災害 大雨、地震での地盤のゆるみに注意！ Sediment disaster

急峻な山々に囲まれた大田市では、風水害や地震による土砂災害のおそれがあります。近年の土砂災害の状況を踏まえ、わが国では「土砂災害防止法」に基づき、国民の生命および身体を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにした上で、警戒避難体制の整備などの対策を推進しています。

近年の気象状況を踏まえ、土砂災害についての理解を深め、発生に備えてスムーズな避難を行うことが防災・減災につながります。

山間部
山崩れに注意が必要です。山崩れは集中豪雨だけでなく地震によっても発生します。

急傾斜地
がけ崩れに注意が必要です。がけ崩れは、豪雨や地震によって突然発生します。

下流部
山間部の集中豪雨に注意が必要です。豪雨によって山崩れが起きると、土石流の危険があります。

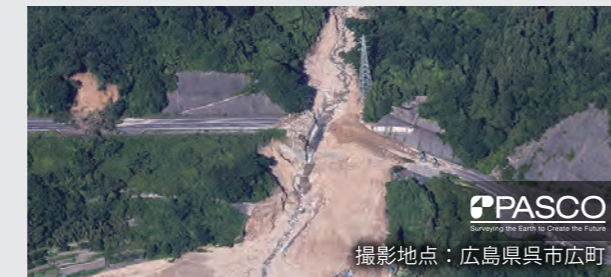
2018年(平成30年)7月豪雨の土砂災害

7月5日から本州付近に停滞する梅雨前線が活発になり、九州から東北にかけて、広範囲で断続的に非常に激しい記録的豪雨となり、6日夕方から8日までの降雨記録では、48時間降雨量は124地点、72時間降雨量では122地点で観測史上1位を更新しました。

土砂災害発生件数は、1道2府29県で2,581件に及び、土石流等791件、地すべり56件、がけ崩れ1,734件の甚大な被害となりました。

死者	237名	住宅被害	全壊	6,767戸
負傷者	432名		半壊	11,243戸
			一部損壊	3,991戸

出典 | 降雨記録：気象庁 平成30年7月13日発表
被災件数：内閣府 平成31年1月9日17:00時点集計



日本に土砂災害が多いのは？ 日本列島の地形や地質・気象などの自然条件に大きな原因があります。

- 地形や地質：山地が多く平地が少ない・もろい地質・急流な川
- 気象などの自然条件：大雨・台風・集中豪雨・大雪・地震・火山の噴火など

主な前兆現象 前兆現象は、土石流、崖崩れ、地滑りなど土砂災害の種類によって変わってきます。

川がにごった 川がにごり、木の枝などが混ざりはじめた	水位が下がった 雨が降り続けているのに川の水位が下がった	亀裂が走った 山の木が傾いたり、斜面に亀裂が走った	石が落ちてきた 山の斜面から石が転がり落ちてきた
湧き水が止まった 今まで枯れたことのない湧き水が止まった	湧き水が増えた 湧き水の量が急に増えた	井戸水がにごった 普段澄んでいる沢や井戸の水がにごってきた	地鳴りがする 地鳴りの音が聞こえてきた

3つの土砂災害 土砂の移動現象により発生する3つの土砂災害

1 急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ) 傾斜した土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。	2 土石流 山肌が崩落して生じる土石などや、溪流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは、時速20km~40kmで、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。	3 地すべり 地面は何層もの地層が積み重なってできていますが、大雨が降り続けると地下に水がしみこみ、水を通しにくい粘土層の上に地下水がたまりやすくなります。この地下水の力に持ち上げられて、粘土層を境に上の地面がゆっくりとすべり落ちます。
--	---	--

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン) 土砂災害が発生した場合に、建物が壊れて命や身体に著しい危害が生じるおそれのある区域	土砂災害警戒区域(イエローゾーン) 土砂災害が発生した場合に、命や身体に危害が生じるおそれのある区域
--	--

ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.12-19

雨 / 土砂災害警戒情報に注意

土砂災害の多くは雨から起こります。降雨量が以下のような場合は注意が必要です。

1時間に **20**ミリ以上
降り始めから **100**ミリ以上

土砂災害警戒情報は、土砂災害の危険性が高まった際、島根県と松江地方気象台が発表する避難に有効な情報です。早めの避難を行いましょう。

土砂災害警戒情報

20ミリ

土石流からは直角に避難

安全な場所まで立ち退き避難
レッド・イエローゾーンは崩れる前に早期の避難を！

※土砂災害警戒情報は避難の判断合図

直角に逃げましょう！
土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。

屋内安全確保

土砂災害がすでに起こってしまい、逃げ遅れた場合は建物内の高い場所へ避難

建物の2階以上で斜面とは反対側の部屋など、屋内の少しでも安全な場所へ避難しましょう。特に土石流が想定される場所では、危険なエリアから離れるか、近くの丈夫な建物の上階に避難しましょう。大雨が上がっても油断せず注意が必要です。

知っていますか？

ため池の決壊による、土砂災害の危険性

短時間に激しく降る大雨(ゲリラ豪雨)によりため池の水位が上がったり、上流部での土砂災害による土砂の流入により、ため池が決壊する可能性もあります。

ハザードマップ ハザードマップでリスクを確認しよう！ Hazard map

自分の住む地域の被害想定を知る

ハザードマップでは、地震や大雨により津波や洪水、土砂災害が起きたときに想定される被害を確認することができます。自分や大切な人たちが普段いる場所の被害想定を確認し、状況に応じた避難をしましょう。

当てはまる にチェック



浸水想定区域外でも、道路の冠水や内水氾濫が発生する可能性があるので注意しましょう。

津波災害警戒区域

津波災害警戒区域は水位に関わらず

水平避難！

最大クラスの津波があった場合に想定される浸水の区域・水位

土砂災害警戒区域

山沿いは要注意！

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

家屋倒壊等氾濫想定区域

河川沿いは要注意！

早期の立ち退き避難が必要です！

堤防が削られたり水深・流速によって建物の倒壊が想定される区域

洪水浸水想定区域（浸水の深さ）

3.0m 以上

3.0m : 2階の床上の高さ

0.5~3.0m 未満

2.0m : 1階の軒下の高さ

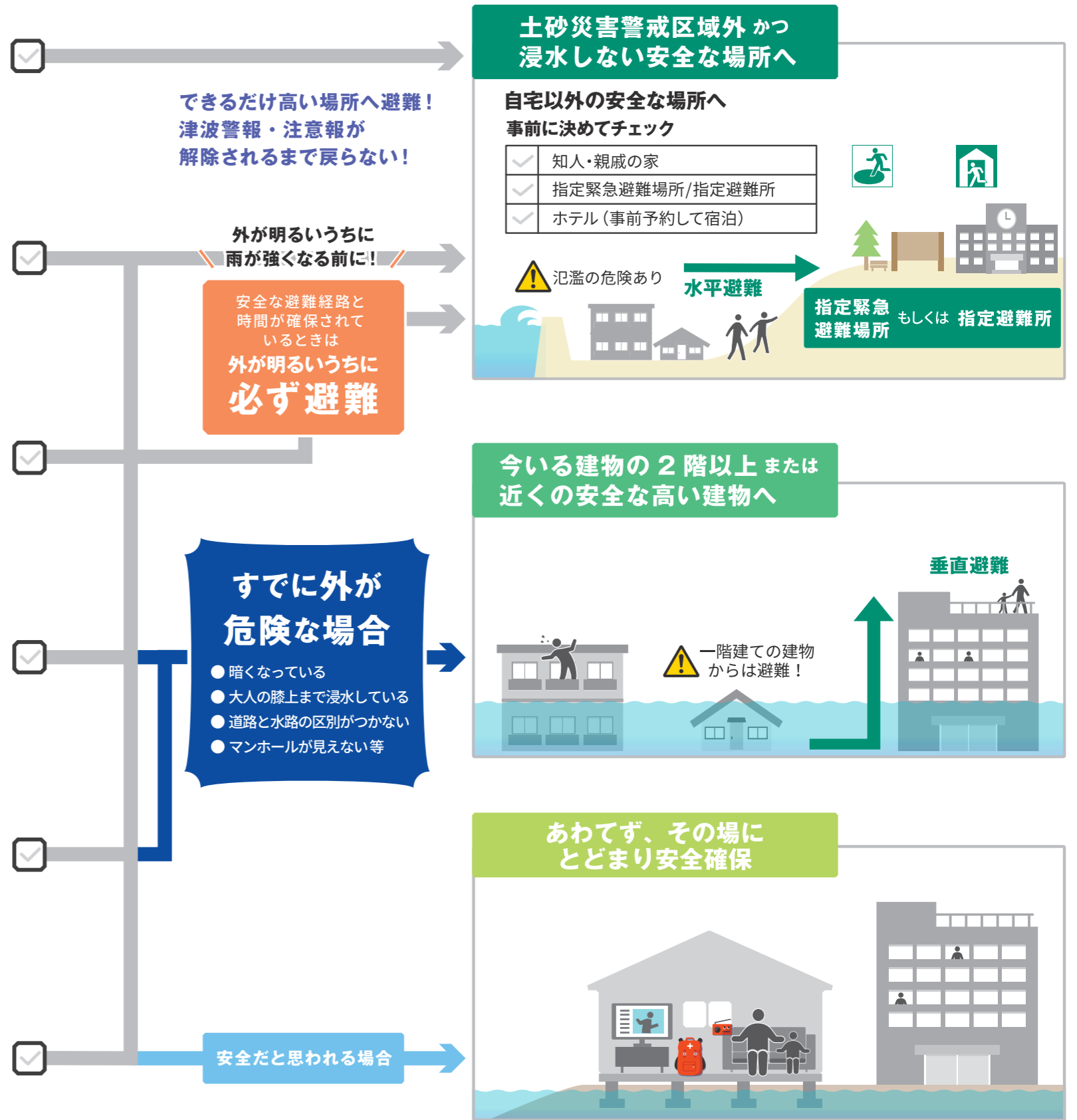
0.5m 未満

0.5m : 大人のひざ下の高さ

正しい避難行動を確認しよう！

「いつ」「どこに」「どうやって」避難する？

土砂災害警戒区域や浸水の深さに応じてどのような避難行動をとるか、事前に決めておくことが大切です。「いつ」「どこに」「どうやって」避難するのか、家族で話し合っておきましょう。



貴重品は常に携帯しましょう

過去の災害では、避難所での盗難が発生しています。貴重品は必ず持ち歩きましょう。



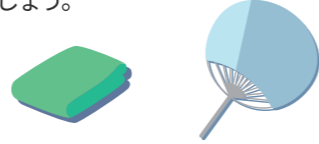
プライバシーを守りましょう

他人の荷物などを勝手に触ったり、のぞいたりしないようにしましょう。



暑さ / 寒さ対策をしましょう

停電などで空調が使用できない場合に備えて、うちわや扇子、薄い毛布(ブランケット)などを用意しておきましょう。



協力して避難所運営を行いましょう

- 避難所マニュアルに従った秩序ある避難所運営を行う。
- 住民どうしの役割分担、要配慮者への支援をする。
- 助け合いの心を持ち、協力し合う。



避難所内での健康を守るために…

こまめに消毒をしましょう

ほとんどの場所が、たくさんの人の手が触れる共有スペースです。自分の生活スペースに戻る前に必ず消毒をしましょう。



感染症拡大を防止しましょう

避難所内での感染症拡大を防ぐために、発熱・せきなどの症状がある場合はマスクを着用しましょう。体調がすぐれない方は係員へ申し出てください。



こまめに水分補給をしましょう

暑さなどで気付かないうちに脱水症状になる場合があります。喉が乾いていなくても、こまめに水分をとるようにしましょう。



避難所でのルールを守り、秩序を保って過ごしましょう! (下の図はイメージです。)



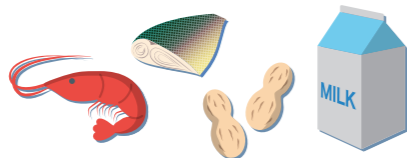
避難所ルール厳守

共同生活の場です。騒いだり、自分勝手な行動はやめ、ルールを守りましょう。



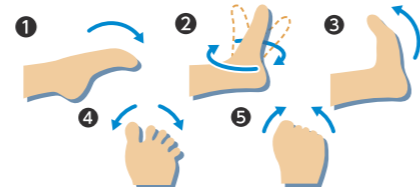
食物アレルギーに注意!

配給食料の中にはアレルギー対応していないものもあります。食品表示をよく確認するとともに、不安な時は避難所係員に聞いてください。



適度な運動を!

長時間同じ姿勢でいると、エコノミー症候群になる場合があります。定期的な立ち上がりや、ストレッチをするなど、適度な運動を心掛けましょう。



要配慮者への協力

高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には

高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどによりしっかりと援護します。傷病者には複数人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負うなどして、周囲の方が協力して援護しましょう。外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導しましょう。



からだの不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず複数人で協力し、スロープを上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



目の不自由な人には

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で。誘導するときは、杖を持っていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。

視覚障がい者の安全やバリアフリーを考慮した建物・設備・機器に表示する世界共通のマークです。視覚障がい者の利用への配慮について、ご理解、ご協力をお願いします。



耳の不自由な人には

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。

このマークの呼び方は「耳マーク」。聴覚に障がいがある方は、見た目では不自由があることが分かりづらいため、このマークを見かけたら十分配慮しましょう。



女性への配慮

女性が避難所であるべくストレスなく過ごせるように、就寝場所や専用スペース等を巡回警備するなど、安全・安心への配慮が重要です。(女性用品の配布方法にも配慮が必要です)

災害対応力を強化する女性の視点
～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～



ペットも同行避難

ペットと一緒に避難

大田市が指定する避難所では、ペットを連れて避難する際は、衛生管理上、基本的に屋外での飼養となります。アレルギーなどがある避難者の方もいますので、周囲の方への十分な配慮をお願いします。



ペット用避難用具

ケージは必ず持参していただくとともに、日頃からケージに慣れさせておいてください。また、市ではペット用品の備蓄はしていません。ペット用品(食料等)は飼い主の方が持参してください。



自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。
非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように日頃から備えておきましょう。

枕元に置いておきたいもの

- 運動靴（底が厚いもの）
- 懐中電灯・ヘッドライト
- 携帯電話・スマートフォン
- 非常持出袋（リュックサックなど）
- 防寒着 タオル・毛布



感染症対策として備えておきたいもの

（自宅を離れる場合）

- マスク アルコール消毒液 除菌シート
- 体温計 使い捨てビニール手袋 スリッパ



あると便利なもの

- 防災ずきん・ヘルメット 防寒具・雨具
- めがね・コンタクトレンズ 使い捨てカイロ
- 工具 簡易食器（割り箸・紙皿） 料理用ラップ
- マッチ・ライター 携帯トイレ ドライシャンプー
- 生理用品 折りたたみ椅子



食料・飲料などの備蓄（最低3日間、推奨1週間）

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から「3日間分」の飲料水や保存のきく食料などを備蓄しておきましょう。

- 3日以上分の食料、缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、お菓子、調味料、スープなど
- 飲料水3日分（1人1日3リットルが目安）
- トイレ用ペーパー、ティッシュペーパー、マッチ、ろうそく、カセットコンロ、缶切り、ラップなど

※ 大規模災害発生時には、「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。
※ 飲料水とは別に、トイレを流したりするための生活用水も必要です。日頃から、水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。



被災時に備える「ローリングストック法」

防災のために特別なものを用意するのではなく、普段からちょっと多めに食材やレトルト食品を買い置きし、食べた分を買い足し、備蓄していく「ローリングストック法」により、賞味期限が短いレトルト食品等も非常食として活用できます。

ローリングストック法で覚えておきたい3つのポイント

- ① ストックするのは「食べなれた食品」
- ② 備蓄した食品は普段から食べる
- ③ 食べた分は早めに補充する



非常持出袋に入れておくもの

- 貴重品：財布・現金、通帳、印鑑、健康保険証（コピーでも可）など
- 常備薬・救急セット（ばんそうこう、包帯、消毒液など）
- ビニール袋・ゴミ袋
- マスク 軍手
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 携帯ラジオ
- 電池・充電器・モバイルバッテリー類
- 筆記具（油性ペン）
- 着替え（上着・下着・靴下） 歯磨きセット
- 食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- 飲料水



災害情報の伝達方法と入手先

災害に関する情報は、次のような手段で入手することができます。
あらかじめ登録やアクセスの確認を行っておき、いざという時にスムーズに情報を入手できるようにしておきましょう。

データ放送

デジタルテレビを視聴中にリモコンのdボタンを押すことで情報を取得することができます。平常時はイベント情報や行政情報を、災害発生時は防災情報（主に開設中の避難所などのお知らせ）を配信します。

データ放送の確認方法

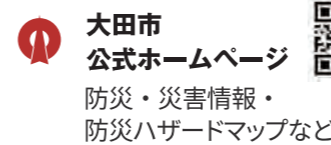
- ① テレビの場合は、リモコンの「dボタン」を押す。スマホの場合は、「dアイコン」をタップ。
- ② メニューから見たい情報を選ぶ。



地震や津波、噴火などが起きた際には、災害情報や避難所情報、交通やライフラインについての情報などもデータ放送画面で見ることができます。
ワンセグのデータ放送はインターネットなど通信に障害が発生した時にも見ることができます。

キキクル（危険度分布）

この雨大丈夫？そんな時は気象庁ホームページ『キキクル』で確認。
雨による災害の危険度を地図上にリアルタイムで確認できます。雨による災害の危険度は10分ごとに更新されます。



緊急速報メール

携帯電話事業者が無料で提供するサービス（事前登録不要）で、災害・避難情報など回線混雑の影響なく、市内の対応端末（スマートフォン・携帯電話）に一斉配信するものです。

大田市メール配信サービス

大田市では、災害の発生や発生のおそれのある場合に、市から携帯電話へ災害情報等を一斉配信する「登録制メール」を導入しています。

メールの登録方法

QRコードを読み込むか、次のアドレスに空メールを送信し、登録手続きを進めてください。

アドレス e-ohda@xpressmail.jp



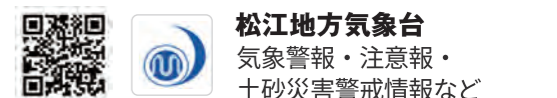
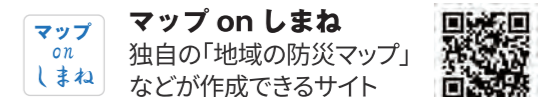
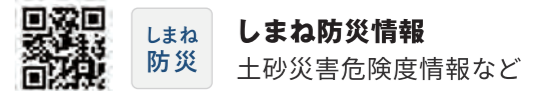
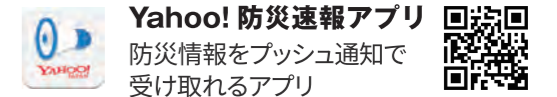
防災行政無線

市民のみなさんに災害情報などをいち早くお伝えするためのものです。

☎ 0854-82-4444

24時間

または ☎ 0854-82-4554 ※聞き直し用の電話番号

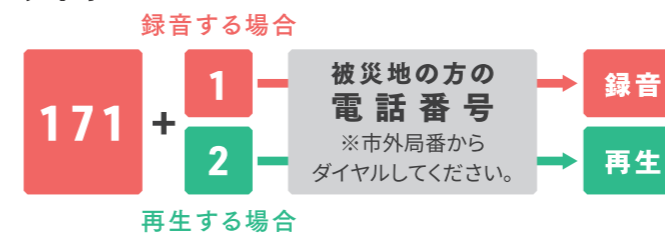


災害時の連絡方法

災害時は、被災地への電話がつながりにくくなります。
災害伝言ダイヤル「171」、災害伝言版「web171」を利用することにより、自身の安否情報の登録、家族や友人などの安否情報を声や文字により確認することができます。

災害用伝言「171」ダイヤル

ガイドンスに沿って録音、再生してください。



災害用伝言板 web171

インターネットを利用して被災地の方の安否情報を確認する伝言板です。

- ① <https://www.web171.jp> または「web171」で検索
- ② 伝言を登録する被災地の方などの電話番号を入力
- ③ 説明に従い登録/確認



マイ・タイムライン 書き込んで完成させよう！ My timeline

マイ・タイムラインとは？

台風接近などによって河川の水位が上昇した場合や大雨等により土砂災害が発生しそうな場合などに、一人ひとりがとる防災行動について、「いつ」「だれが」「なにをするのか」を整理した個人の防災計画です。

あらかじめ災害時の自分の行動をシミュレーションしておくことで、急な判断が迫られる災害時に、自分自身の行動のチェックや、避難の判断をサポートするツールとして役立てることができます。

わが家の災害リスク

浸水想定

m ~ m

土砂災害

土砂災害警戒区域




土砂災害特別警戒区域

わが家の緊急避難場所

年 月 日作成

家族の集合場所

家

いつ		だれが		なにをするのか		住民の皆さんのとるべき行動	
周囲の状況	警戒レベル	気象情報 避難情報	行動目安	なまえ	なまえ		※記入例
台風が発生 自分がいる所で降ってなくても、上流で雨が降れば川の水は増えてくる ↓ 台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる 雨が集まって、川の水がだんだん増える	警戒レベル 1	早期注意情報 (気象台が発表)	大雨になるまでに	なまえ	なまえ	・気象情報の確認 ・家族の行動予定を確認 ・携帯電話の充電	●最新の気象情報等を入手する。 ●備蓄品など防災グッズの確認。 
水防団待機水位到達 ↓ 氾濫注意水位到達	警戒レベル 2	洪水注意報 大雨注意報等 (気象台が発表)	避難前に確認すること	なまえ	なまえ	・非常用持出袋を準備 ・避難方法を確認 ・貴重品を管理	●ハザードマップ等で避難行動を確認。 
避難判断水位到達 静間川 川合橋 2.9 m 静間川 八日市橋 2.6 m 三瓶川 神田橋 2.5 m	警戒レベル 3	高齢者等避難 (大田市が発令) 大雨・洪水警報 (気象台が発表)	避難する時に注意すること	なまえ	なまえ	・(高齢者等)避難先へ移動 ・近隣の要配慮者へ声掛け	●高齢者等は速やかに避難。 ●土砂災害警戒区域等や水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は、避難準備が整い次第避難開始。  高齢者・乳幼児や、避難に時間がかかったり補助が必要な人
氾濫危険水位到達 静間川 川合橋 3.2 m 静間川 八日市橋 3.8 m 三瓶川 神田橋 2.9 m	警戒レベル 4	避難指示 (大田市が発令) 土砂災害警戒情報 (島根県・気象台が発表)		なまえ	なまえ	・避難所へ移動する ・自宅で避難する場合、安全な部屋へ移動する	●全員危険な区域から少しでも安全な場所に速やかに避難。 ●道路冠水や土砂崩れにより、避難が困難になっているおそれがあるため、この状況になる前に避難を完了しておく。
災害が発生	警戒レベル 5	緊急安全確保 (大田市が発令) 大雨特別警報 (気象台が発表)	ここまでに必ず安全確保行動を終える	なまえ	なまえ	浸水想定が3mを超えるところは、事前に決めている避難場所へ移動 命を守るための最善の行動を取ってください	●立退き避難が難しい場合は、垂直避難など少しでも命が助かる避難行動をとる。

我が家の防災メモ 避難場所や緊急連絡先を調べてメモしておきましょう

避難場所	
避難所	
緊急連絡先	

お名前	電話番号	生年月日	血液型	学校・勤務先／電話番号	持病・常備薬など

📞 困った時の対応・連絡先

大田市内の緊急連絡先	
● 大田市役所(代表)	0854-82-1600
温泉津支所	0855-65-3111
仁摩支所	0854-88-2111
● 大田市立病院	0854-82-0330
● 大田警察署	0854-82-0110
温泉津広域交番	0855-65-0110
● 県央県土整備事務所 大田事業所	0854-84-9725
● 道路緊急ダイヤル(国交省管理)	#9910

 消防 Fire Department
119 火事が発生した!大ケガをした!
 警察 Police Department
110 事件・事故がおきた!
 災害用伝言ダイヤル(安否確認)
171 録音するときには 1 ※ガイダンスが流れるので、その指示に従って落ち着いて録音・再生してください。
再生するときには 2

ライフライン

自力で避難できない場合	市役所・支所・自治会長・自主防災組織・民生児童委員・近所の人・消防団のいずれかに電話し、支援を要請する。
停電になった場合	電源やコンセントを切り、中国電力ネットワーク株式会社 出雲ネットワークセンター (0120-311-957) 温泉津町は浜田ネットワークセンター (0120-312-815) に電話する。
防災行政無線が聞き取れない場合	市役所・支所に電話し、内容を確認する。テレホンサービス:0854-82-4444または0854-82-4554